

公表

2単位 児童発達支援・放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービスバンビ					公表日	令和7年3月10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11人	0人	法令：1人当たり3㎡ 児発34.38㎡÷3㎡=11名分 ・エリアごとに分けて工夫されている。	・遊びのスペースはもう少し広いと良い。 ・広いと走りやすくなるため危険が生じると、構造化されることで落ち着いて過ごせている面がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10人	1人	・法令ではお子さん10人あたり2人の配置が基準であるが、当事業所では、3~4人の職員を配置している。	・目が離せない子どもがいる日に適切でないと感じることがある。 ・駐車場から部屋への移動や部屋から駐車場への移動時、職員1人で児童2人と手をつないで移動しているが、児童の思いがけない動きに危険・不安を感じることがある。常に注意しているが、1対1での対応が必要だと思う児童もいるので、無理なく安全に移動ができるようにと思う。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10人	1人	・全体に向けて個人マーク（靴箱・ロッカー）、配車の可視化、エリア分けを行っており、個々に対しては、特性や育ちに応じたスケジューリング、ルーティンワークの活用、ワークシステムなど気付きを促すための注目しやすい設定など、時間や空間の構造化を行っている。	・バリアフリー化は2階ということもあり難しい。 ・構造化は満たしているが、外階段がバリアフリーではない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11人	0人	・日々整理整頓を心がけ、来所するお子さんの特性に合わせて危険な行動に繋がらないように配慮している。大きく体を動かす場合には、外の廊下を利用する場合もある。 ・食事、学習、遊び、活動等はエリアで分けられて子どもたちが自分で動くに当たり分かり易い空間となっている。 ・外廊下に門ができ安全に利用できるようになったのでとても良い。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11人	0人	カームダウンエリアを設置して、1人になりたい、休憩したいお子さんは随時利用することができている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	11人	0人	環境整備は担当者を決めて行っており、支援については、月1回の外部講師による研修で支援会議を行う際に、今月の取り組みについての振り返りを行っている。また、日々の朝礼などで確認するべき点の打ち合わせや報告を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11人	0人	保護者に評価アンケートを行ってもらい、ご意見を踏まえて職員が評価し、事業所は改善点を検討している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11人	0人	月々の社内研修（支援会議）やミーティングで意見を聞くことや、職員用の事業所評価も行い集約している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0人	11人	行っていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11人	0人	・月に1回、外部講師によるバンビの子どもを対象とした専門的な研修を行ったり、犬山市や愛知県の開催する研修会にも該当者は参加している。 ・パートも研修に参加できてありがたい。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11人	0人	・現場での個別の画板に実施中の個別支援計画や専門的支援の実施計画を公開し、いつでも確認できるよう配慮している。 ・TEACCHの自立課題ツールが多数あり、子どもに合わせて作成している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11人	0人	定期に加え成長を感じた際には、フォーマルに準じたアセスメントを行い、日々の支援ではインフォーマルなアセスメントも随時行っている。保護者からの提供でクリニック等の心理検査の結果などをフォーマルなアセスメントとして活用して計画作成を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11人	0人	・保護者からのアセスメントアンケートや日々の関わりの中から課題を抽出して個別支援計画の原案を作成し、保護者との面談、担当職員と支援会議を行い将来を見据えて本計画を作成している。 ・疑問や気になることは確認するようにしている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11人	0人	現場での個人画板に実施中の個別支援計画と専門的支援実施計画を公開して、いつでも確認できるように配慮している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11人	0人	保護者のご協力によってクリニックなどで行ったフォーマルなアセスメント（心理検査）の情報を頂き、すべての職員で共有している。日々の行動観察に加えて、事業所で準備したフォーマルに準じたアセスメントを行っている。		

	16	放課後等デイサービス支援計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11人	0人	5領域を踏まえて、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」および「地域支援/連携」のための支援目標と具体的な内容を設定して個別支援計画を作成している。	
適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11人	0人	常勤職員や担当職員により計画立案し実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11人	0人	毎月変化させている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス支援計画を作成し、支援が行われているか。	11人	0人	基本的には個別化した取り組みが中心になっている。お子さんの社会性に関する育ちを見て、どの集団の規模が適切なかを判断し計画作成し実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11人	0人	・常勤は朝の打ち合わせを行い、申し送りノート・LINE・企画書等で、時間差で来るパートさんにも周知している。また工程表や生活シナリオでその日の流れを把握できるように配慮している。 ・朝のMTを実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11人	0人	帰り時間がまちまちなので、常勤職員で集約して申し送りノートに反映させている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11人	0人	支援経過（サービス提供実施記録）もしくは特記事項を残し経過が見られるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11人	0人	6か月以内でモニタリングを行っている。必要な場合はより短い期間でも行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11人	0人	参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11人	0人	必要であれば、保護者を通じて医療での評価や取り組みをお聞きして反映させている。保健センター、相談支援員、学校などの関係機関と意見交換を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、地域の学校、特別支援学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11人	0人	併行利用の促し等を行うために、保護者の意向、園での受け入れの都合などもお聞きするなど調整を行っている。パンビで行う支援の好事例について情報共有を行いご理解頂けるよう努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11人	0人	学校や保護者の求めにより、特性や行ってきた支援、当該児童の強みや支援が必要な部分などの情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	11人	0人	児童発達支援センターとの連携は日ごろから行っている。いつでも個別に相談するなど関係性は良好である。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9人	2人	・近隣の他の事業所と長期休暇には連携し、プラネタリウムへの外出の活動を行い、地域の子どもたちとの交流を図った。	・他の地域の子どもとの交流はやや少ない。 ・ほぼ園には通っている子どもたちであるのと、療育の機会を優先している面がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11人	0人	・連絡帳・送迎時のコミュニケーションで状況をお聞きし、また、パンビでの様子もお伝えしている。 ・送迎時に努めている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11人	0人	それぞれの家庭で対応方法が違うため、日々の職員との対話や保護者面談時に家庭の特色に合わせた助言を随時行っている。保護者交流会を実施して、障がいの特性の理解を促したり、公でお伝えできる内容であれば、当事業所の取り組みを活かして家庭で行える方法を一緒に考える等の相談を行っている。今年度は加えて防災の対応についてお伝えしている。	療育は「実践」することが一番の早道です。ご家庭でのお悩みのためにパンビで療育に取り組みますが、それをご家庭でも取り入れて頂き、継続して「実践」して頂けるように保護者様に促していく。単発的な取り組みではなく、継続して習慣化できるように支えていきたい。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11人	0人	重要事項説明書の変更点や利用者負担などの変更は必ず文書で発信して同意を得ている。支援プログラムは家族面談時や日々の保護者との対話で説明を行っている。	
	36	放課後等デイサービス支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11人	0人	モニタリング時の家族面談を行う際には事前にアンケートを実施して、園での課題や6ヶ月間の育ち、事業所に対する今後の要望をまとめて頂き、踏まえて面談を行い個別支援計画に盛り込み作成している。	
	37	「放課後等デイサービス支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス支援計画の同意を得ているか。	11人	0人	説明し同意を得ている。	

	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11人	0人	随時行っている。	
保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10人	1人	11月16日に保護者会を開催した。同じ世代のお子さんの保護者でグループを作り話せる機会を設定した。	きょうだいへの取り組みについて、来年度以降に取り組む予定。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11人	0人	いつでも相談できる環境であることは周知している。また、保護者と会うタイミングでお子さんの状態などを詳しくお伝えしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11人	0人	年に2回お便りを発行している。行事予定は利用希望のカレンダーで案内し、今年からInstagramで活動内容を発信している。園も含めて、連絡帳で日々の状況の発信が行えるよう保護者欄、教育機関の欄を設けて情報共有している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11人	0人	・留意している。 ・気を付けて、防止策をその都度確認している。	気を付けてはいるものの持ち物や文書などを間違えてお入れすることがある。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11人	0人	情報伝達は文書や文字にして発信することを基本として、後日確認できるように配慮している。また、日程などは事前確認の連絡を入れる場合もある。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9人	2人	・夏休みにはセラピードックを招待したり、警察の方にお越し頂き交通教室を行ってもらった。デイサービスの高齢者との交流を行い地域住民との交流も図っている。 ・地域住民を招待はしていない。散歩の時などは積極的に挨拶している。	知らない人が入ってくることに抵抗を感じるお子さんもいらっしゃるから、来期は民生委員の方など、福祉にご理解のある方から訪問して頂くように声をかけてみる。ボランティアさんの受け入れも積極的にしてみる。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11人	0人	保護者には、感染症の対応マニュアル、緊急時対応マニュアルを配布して周知し、職員には、日々の研修や訓練で実際に経験したり、他者の経験したインシデントや事故を共有して再発防止に取り組んでいる。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11人	0人	業務継続計画は策定し、非常災害のための訓練は、月に1回、避難訓練や準じた取り組みを行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11人	0人	服薬を行っているお子さんには薬事説明書の提供を求め、かかりつけ医、既往症などを契約時に確認し、アセスメントアンケートや家族面談の際にも再確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11人	0人	食物アレルギーについて保護者を通じて状況を書面で情報収集をして、その対応方法や範囲について職員に周知している。	現在はエピペンを使用するほどの食物アレルギーのお子さんはいないが、いつか利用されるようになった場合に備えマニュアルがあると助かる。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11人	0人	安全計画は作成し、送迎車での追い置き去り防止については、ブザーの設置やその都度目視でチェックを行っている。また、防犯や避難訓練、感染症、BCPの委員会の実施や研修、訓練、虐待や身体拘束の委員会の実施や研修は実施済み。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11人	0人	避難訓練や交通安全講習を行った際には実施報告を行っている。また、災害時や感染の際の対応方法については、文書にて周知を図っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11人	0人	事故やヒヤリハットの事例について、ミーティングで周知して、他者の経験した危険につながるような事象を共有し再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11人	0人	虐待担当者を選定し委員会を運営している。研修の機会を設け、職員一人一人にチェックリストを配布し支援の振り返りを行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス支援計画に記載しているか。	11人	0人	身体拘束の事例はないが、委員会を運営し、どんなことが身体拘束に該当するのかについて検討し、いつか、やむなく身体拘束を行うとなった時の手続きについては伝えている。		